

もっと

イギリス英語で
しゃべりたい!

UKイントネーション・
パーフェクトガイド



小川 直樹 著
ナディア・マケックニー

研究社

Copyright©2015 by Naoki Ogawa and Nadia McKechnie

もっとイギリス英語でしゃべりたい！
UK イントネーション・パーフェクトガイド

Let's Speak British English! 2
The Perfect Guide to UK Pronunciation and Intonation

PRINTED IN JAPAN

はじめに

イギリス英語らしさは韻律が決め手

イギリス英語 (British English; BE) の発音を扱った参考書の多くは、母音と子音だけを扱っています。しかし BE らしさは、母音と子音だけから生まれるわけではないことを、みなさんにご存じでしょうか。

BE らしさを本当に生み出しているのは、実はリズムやイントネーションです。アメリカ英語 (American English; AE) らしさもリズムやイントネーションにあらわれます。以下、リズムとイントネーションの両方をまとめて言う場合には、「**韻律**」^{いんりつ} という単語を使うことにします。

そんなわけで、韻律については前著『イギリス英語でしゃべりたい!』でも、少しばかり扱いました。とはいえ、まだまだ十分ではありません。韻律は奥深いのです。

韻律は扱いがむずかしく、十分な知識がなければ書けません。日本で出版される BE の発音本のほとんどが母音と子音しか扱っていないのは、それだけなら十分な知識がなくても、なんとか書けてしまうからです。

しかし今の時代は、多くの人が発音に敏感になっています。昔だったら、英語はちょっとくらい発音がひどくても許されましたが、今では発音が悪いとバカにされてしまいますよね。

特に BE に関しては、かなりマニアックに興味を持つ人が多いのです。というのも、日本での英語の主流は AE です。BE に興味を持つ人も増えてきてはいるとはいえ、やはり少数派です。しかし、逆に少数派はこだわりが強いのです。そのため、母音と子音だけの解説では、満足できない人が増えているのです。

実際、ボクのもとにも、BE の発音を詳しく習いたいと個人指導を願い出る人がいます。正直、個人指導となると、受講料は決して安くありません。それでも BE を身につけたいからとやって来るわけです。

そんな BE マニアのみなさんのご期待に教材を通じて応えるには、BE らしさを詳しく説明すること、そして読者のみなさんがそれを実際に発音できるようにしていねいに導くことが必要です。

ところで、BE の教材には、中上級者向けに、生の英語をたくさん収録したのもも売られています。でも、そういった教材には細かい発音上の解説が付いていないことが多いのです。スクリプトでは、こう書いてある。でも、それが

どうしてそんな発音になるのか、いっさい情報が無い。情報が無いから、そんなものかと思うしかない。そんな教材がけっこうあるのです。これでは聞き取れるようになりませんし、BEらしく話せるようにもなりません。

実際にイギリスで生活し、生のBEに触れている人の中には、そのむずかしさを痛感している人がたくさんいます。そんな人たちのために、ボクは前著『イギリス英語でしゃべりたい!』を執筆しました。そして、とてもうれしいことに、何年もイギリスに住んでいる人から、この本のおかげで今まで聞き取れなかったBEがよくわかるようになった、という声が少なからず寄せられています。

前著では、韻律は本の中身の1/3弱程度の扱いでした。しかし、本書『もっとイギリス英語でしゃべりたい!』は、まさにこの部分の解説に重点を置きました。リアルなイギリス英語を本当に理解し、再現してみたいと思われる人たちは、ぜひ本書でボクと一緒にトレーニングを積んでいただきたいと思います。

本書の英文とコラムはロンドン育ちで、現在は日本で英語教師やライターの仕事をしている Nadia McKecknie さんが作成しました。イギリスに行けば実際に耳にするような、リアルな文章を書いてもらうようにしました。

ナディアさんは本書の録音も担当しており、起伏に富んだ現代的なBEを非常にリアルに再現しています。もう一人のナレーターであるBEナレーションの第一人者 Michel Rhys さんは、ほれぼれするようなプロらしいなめらかで明快な標準発音を披露してくれています。

本書の韻律の記述は、この二人による音声を、ボクが耳で聞いて分析した結果です。このお二人なしでは、本書は成立しませんでした。最大級の感謝をあらわしたいと思います。

また、本書の刊行にあたっては、研究社の金子靖さんと大谷千明さんの辛抱強い協力も不可欠でした。お二人には、特段の感謝をあらわしたいと思います。

2015年4月
小川直樹

目次

はじめに iii

リピート音声のダウンロード方法 vii

本書の使い方 viii

Part I 基礎編 1

1 驚愕のテキパキ感 BE のリズム 2

◇ BE はわかりやすいし、聞きやすい？ ◇ 現地の英語はわからない ◇ 衝撃のテキパキ感 ◇ テキパキ感の原因 ◇ 何が短い？ ◇ 弱音節の弱さ、短さ ◇ BE は強勢の数が少ない ◇ 音節が減る ◇ 単語間でも音節は減る ◇ 機能語が消える ◇ 一気に発音する ◇ 機能語は弱まるのが普通だが… ◇ 機能語の弱形

2 イントネーション基礎理論 14

◇ イントネーションの構造 ◇ トーンの練習 ◇ 下降調が一番大事 ◇ 下降調の練習 ◇ 上昇調 ◇ 降昇調 ◇ 平坦調 ◇ 平坦調で下降調、上昇調を表わす例

3 句末原則 23

◇ 句末原則 ◇ 句末原則を検証する ◇ 句末原則の実例 1 音調句 ◇ 句末原則の実例 複数の音調句 ◇ 句末原則の実例 複数の音調句 2 ◇ 核にならない副詞が付く場合 ◇ 句末原則で会話に挑戦 ◇ 句末原則で長文を読む

4 下降する yes-no 疑問文 44

◇ 疑問文が上昇しない ◇ 下降調の yes-no 疑問文は誤解しやすい ◇ 上昇する yes-no 疑問文もある ◇ 下降調の yes-no 疑問文の練習 ◇ 下降調の yes-no 疑問文の会話練習

5 禁断のイントネーション！？ 降昇調と分離降昇調 52

◇ BE らしさの秘密は高低変化 ◇ 降昇調 ◇ 降昇調の練習 ◇ 降昇調の会話例 ◇ 分離降昇調 ◇ 分離降昇調の実例 ◇ 1 音調句内での分離降昇調 ◇ 分離降昇調の練習 ◇ 分離降昇調の会話例 ◇ 降昇調と分離降昇調を含む長文に挑戦

Part II 実例集 1 会話編 77

- 1 句末原則で話してみよう！ エクレアをすすめる 78
- 2 下降調で話してみよう！ けがをしてしまった！ 82
- Nadia's Column** イギリス英語をもっと知りたい！①Chrimbo って何？ 85
- 3 BEらしい多様なトーンを学ぶ！ 待ち合わせに遅れる 86
- 4 驚きを表わすイントネーション 同僚にばったり会う 90
- 5 BE 特有の高低変化に富むイントネーション ちょっと早かった？ 94
- 6 最難関！？ 早口のBEに挑戦！ 99
- 7 ロンドン訛りの会話に挑む！ ロンドンのパブで注文をする 102
- 8 ベーシックなBEイントネーションを学ぶ 予定を聞く 106
- Nadia's Column** イギリス英語をもっと知りたい！①答えと訳 109
- 9 英語らしい発音の秘訣 長い文を一気に読む 110
- 10 電話での会話 今話せる？ 114
- 11 句末原則の例外 1 髪を切ったの 118
- 12 句末原則の例外 2 BE 発音のクセ 122
- Nadia's Column** イギリス英語をもっと知りたい！②オープンのなかに丸パンがあると子供が生まれる？ 126
- 13 高低差に富むイントネーション 電話での会話 127
- Nadia's Column** イギリス英語をもっと知りたい！②答えと訳 131

Part II 実例集 2 長文編 133

- 1 句末原則の例外 機長の搭乗アナウンス 134
- Nadia's Column** イギリス英語をもっと知りたい！③イギリスはおいしい？ 138
- 2 下降調のバリエーション 飛行機内でのアナウンス 139
- Nadia's Column** イギリス英語をもっと知りたい！③答えと訳 143
- 3 平坦調が多用される文 1 祝日の天気予報 144
- 4 早口のアナウンスを再現する 交通情報 151
- 5 ツアーを案内する ステイトリーホーム・ツアー 158
- 6 平坦調が多用される文 2 銀行の自動応答メッセージ 164

あとがき 169

レポート音声のダウンロード方法

本書の付属 CD に収録されている会話・長文を、フレーズやセンテンスごとにより細かく区切った音声データ (MP3) をご利用いただけます。研究社ウェブサイト (www.kenkyusha.co.jp) から、以下の手順でダウンロードしてください。

- (1) 研究社ウェブサイトのトップページで「音声ダウンロード」をクリックして「音声データダウンロード書籍一覧」のページに移動してください。
- (2) 移動したページの「もっとイギリス英語でしゃべりたい！」の紹介欄に「ダウンロード」ボタンがありますので、それをクリックしてください。
- (3) クリック後、ユーザー名とパスワードの入力が求められますので、以下のユーザー名とパスワードを入力してください。
ユーザー名: guest
パスワード: MottoBritish
- (4) ユーザー名とパスワードが正しく入力されると、ファイルのダウンロードが始まります。ダウンロード完了後、解凍してご利用ください。
本書の DOWNLOAD アイコンの表示にしたがって、該当する番号の MP3 音声をお使いください。

フォルダー 1	DOWNLOAD 01 01	～	DOWNLOAD 01 22
フォルダー 2	DOWNLOAD 02 01	～	DOWNLOAD 02 08
フォルダー 3	DOWNLOAD 03 01	～	DOWNLOAD 03 24
フォルダー 4	DOWNLOAD 04 01	～	DOWNLOAD 04 54
フォルダー 5	DOWNLOAD 05 01	～	DOWNLOAD 05 57
フォルダー 6	DOWNLOAD 06 01	～	DOWNLOAD 06 58

本書の使い方

1 イギリス英語による英文、会話、長文のナレーションを収録しました。英文の音声はすべて同梱 CD に収録されています。

一部、AE (アメリカ英語) と BE (イギリス英語) の両方を収録したものには、米 (🇺🇸) 英 (🇬🇧) のアイコンを付けています。

◀ 降昇調の会話列

ポイントは、降昇調です。1 単語にかぶさる降昇調がかなりの頻度で使われています。かなり BEらしいイントネーションの会話です。

読んでみよう

Two flatmates chat about books.



Tony: Good book?

Melissa: Yes, it's really good actually. I can't put it down.

Tony: What's it about?

Melissa: Well, it's about this man who goes on holiday to Spain and while he's there he meets this woman who seems to be really ordinary, only she's not what she seems.

ルームメイトの2人が本についておしゃべりする

トニー いい本なの？

メリッサ ええ、ほんとにいいわよ。読むのをやめられないの。

トニー 何についての話なの。

メリッサ そうね、休暇でスペインに来たある男の人についての話なんですけど、その人は薄在中にある女に出会うの。その女は一見アツーに見えるんだけど、実はそうではないのよ。

イントネーション

Two flatmates | chat about books.



Tony: ① Good book?

Melissa: ② Yes, ③ it's really good actually. ④ I can't put it down.

2 本書は特に「イギリス英語のイントネーション」を深く考察しています。上昇調 (↗)、下降調 (↘)、平坦調 (→)、降昇調 (↘ ↗) などのほか、文字の大きさや太さによって示された音の強弱に注意しながら、よく CD を聴いてください。

3 2で記したイギリス英語のイントネーションについて、詳しく解説しています。

5 単語のイントネーション!? 降昇調と分離降昇調

Tony: ⑤What's *ɪz* about?

Melissa: ⑥Well, ⑦*ɪz*, about this *mæn* ⑧*who* goes on holiday *to* Spain ⑨and while *he's* there *he* meets this *woman* ⑩*who* seems *to* *be* really ordinary, ⑪*only* *she's* not | what *she* seems.

解説

Two flatmates | chat about books.

DOWNLOAD 03 01

タイトルは出だしを高く、主部でいったん下降調をかぶせて、句切りを入れています。述部は1語ずつ階段状に下がっています。最終的にはbooksが核になります。下降調です。ここでは声がいぶ小さくなっています。

① Tony: Good book?

DOWNLOAD 03 02

上昇調で、句末原則にしています。すでに第4章で見たように、yes-no疑問文で上昇調を使うのは、BEでは珍しいくらいです。ただここでは、単語数が少なく、疑問文を示す倒置もないので、イントネーションで示すほかありません。そのため、上昇調が使われています。

② Melissa: Yes,

DOWNLOAD 03 03

かなり声が高くなった下降調で、勢いのある積極的な答え方をしています。

③ *ɪz* really good actually

goodが核で下降調です。ac
になっています。actuallyは片

4 会話、長文の英文を1センテンス、1フレーズごとに繰り返して聴けるリピート音声を用意しました。3の解説を読みながら、何度も聴いて、再現してみてください。

リピート音声は研究社のホームページ(www.kenkyusha.co.jp)からダウンロードできます(MP3データ)。ダウンロード方法はviiページをご覧ください。



Part I
基礎編

「イギリス英語がすごく速く聞こえる理由は?」

「イントネーションって何?」

「イギリス人みたいに話すコツを教えて」——

イギリス英語の極意を、一からいねいに解き明かします。

1 驚愕のテキパキ感 BE のリズム

◆ BE はわかりやすいし、聞きやすい？

以前は、AE に比べて、BE はわかりやすいし、聞きやすい、と言っている人によく出会いました（今でもそう思っている人がいるかもしれませんが…）。

確かにエリザベス女王の英語を聞けば、ゆっくりだし、響きもやわらかで、1 つひとつの単語がはっきりわかります。BE はわかりやすいという人は、おそらくこんなイメージを持っているのだと思います。

でも、残念ながら、イギリスに女王は 1 人しかいないのです。貴族にしてもわずかです。多くは庶民です。その人たちは、残念ながら、女王とは異質の英語を話しています。

「いやいや、自分の習っていたイギリス人の先生もわかりやすかったよ」とおっしゃる方もいるかもしれませんが、でも、その先生が、家族やイギリス人の友達と話しているのを聞いたことがありますか。そんなときにその人が話す英語は、必ずしもわかりやすくはないはずですよ。そう、おそらくその先生は、授業で日本人のみなさんに話すときは、努めてわかりやすく発音しようとしているのです。

◆ 現地の英語はわからない

イギリス、特にロンドンに行ったことがありますか。そこで地元の人に触れてみて、「BE はわかりやすい」と感じる人は、はたしてどれだけいるのでしょうか？ 留学やビジネスなどで一定期間イギリスに滞在するようなことがあれば、そのむずかしさにショックを受けるはずですよ。

実際、ボクも 20 代でイギリスに初めて行った際に、まさにそんな思いに襲われました。すでに英語についてはある程度の知識を備えていたし、BE についてもかなり勉強していたつもりでした。でも、いざロンドンに降り立ち、街中でホテルまでの道を尋ねたところ、相手の言っていることがほとんどわかりませんでした。

その後しばらくは、「今まで、ず〜っと英語を勉強してきたつもりだったけど、いったいボクは何をしていたんだ？」という思いに何度も駆られました。それほど BE がわからなかったのです。

◆ 衝撃のテキパキ感

では、BE のどんなところがむずかしいのでしょうか？ そして、AE とどんなところが違うのでしょうか？

BE の発音の大きな特徴の 1 つに、「**テキパキ感**」があります。AE に慣れている日本人は、この感じに大いに驚いてしまいます。AE は、ゆったりしたリズムで話されるため、「響き」はかなりゆったりして聞こえます。そんなリズムに慣れた日本人は、BE の「**テキパキ感**」、そして「**スピード感**」に面食らってしまいます。だから英語に自信のある人でも、現地で予想以上に速い英語を聴かされて、うろたえてしまうのです。

◆ テキパキ感の原因

では、何がこの「**テキパキ感**」「**スピード感**」をもたらしているのでしょうか？

まず「**リズム**」の問題があります。英語の**リズム**は、強弱からなります。強い部分は、強く、長く、はっきりと、発音されます。それ以外は、弱く、短く、あいまいに、発音されます。

AE のリズム

強 ⇒ **強く、長く、はっきりと**

弱 ⇒ 弱く、短く、あいまいに

AE の場合、強弱の差は上のような感じだとしましょう。でも、この差が BE では、下のような感じになるのです。

BE のリズム

強 ⇒ **強く、長く、はっきりと**

弱 ⇒ 弱く、短く、あいまいに

同じ「強く、長く、はっきりと」でも、AEのほうがやわらかく、より長く発音され、弱まり方もゆるいのです。

BEでは、強い部分が長くなるにはなるんですが、伸び方が小さいのです。そして、全体的にしっかり、はっきりした発音になります。一方、弱まりの度合いはひどく大きいのです。

強弱のセットの繰り返しを表わしたのが、下の図です。どちらも5つの山からなっています。BEのほうが1つひとつの山が短いので、AEに比べてかなり早く終わってしまいます。



(拙著『イギリス英語でしゃべりたい!』p.84より)

◆何が短い？

では、具体的にはどんな音がこのような差を生むのでしょうか。英米の母音で、この差がはっきり出るものが2つあります。図のように5つ山のある例で見ていきましょう。

まず1つは、スペリングでは -o- で表わされるものです。



Tom got a lot of boxes at the shop. 🇺🇸 🇬🇧

(トムは店でたくさんの箱を買った。)



AEでは、Tom, got, lot, boxes, shopの母音はすべて [ɑ] です。[ɑ] は口を最大限に開けた「ア」です。実は、このAEの [ɑ] は、かなり長いのが特徴です。そのため、学者によっては [ɑ:] と表記することもあります ([:] は伸ばす記号)。一方、BEではここで [ɒ] という母音を使います。これは、口を最大限に開けて、わずかに唇を丸めた「オ」です。[ɒ] は短く一気に発音されます。その結果、この例文はAEではゆっくり波打つように発音されますが、BEではかなり短くあっさりした響きになります(録音では、英米の母音の音質差はかなり小さめです)。

もう 1 つが -a- で表わされる母音です。例を見てください。

The **cat** **ran** to **catch** the **rat** in the **lab**.  

(研究室で猫が走ってネズミをつかまえようとした。)



辞書では、この -a- に英米で同じ [æ] が使われています。しかし、実際には英米でかなり違った音質になります。

AE では、「エ」の成分の強い、長い母音です。ときには [ɛ:ə] といった二重母音のようにもなります。

BE での [æ] は、「ア」の成分が強く、また短いのが特徴です。学者によっては、この母音を [a] と表記します。これは口の前のほうで出す「ア」です。実は BE の [æ] は、日本語の「ア」で代用しても、大きな違和感がないのです。

このように、-o- や -a- というかなりの頻度で使われる母音字の音質ばかりでなく、音の長さにも、英米で差が出てしまうのです。ちなみに AE の発音をしっかり身につけた人が、BE の発音を学ぶ際には注意が必要です。BE のあっさりした [æ] に、AE のこってり長い [æ] のくせが出てしまいやすいからです。

◆ 弱音節の弱さ、短さ

もう 1 つ、BE が速く聞こえる理由は、弱音節（強勢のない音節）が非常に弱く、短く、あいまいになるということです。その弱化の度合いは、AE よりもはるかに極端です。

スペリングで r を伴う弱音節で、その傾向は明らかです。例えば、以下の 2 語で見てください。

	AE	BE
teacher	[tí:t[æ]	[tí:t[ə]
Oxford	[ó:ksfæd]	[óksfəd]



BE では、下線部はともに [ə] です。これは非常に弱く短い母音です。BE の teacher はカタカナで書けば「ティーチャ」なのです。決して、「ティーチャー」ではありません。

一方、AE の teacher の -er は [ə] です（従来の表記なら [ər]）。AE だと、-er は BE より長く発音されます。カタカナで表記すれば「ティーチャー」という具合です。

Oxford は、強勢母音が、AE [ɑ], BE [ɒ] です。そのため、強勢音節、弱音節ともに長さに差があり、全体ではかなりの違いになります。

BE ではあっさり短い「**オクスファド**」です。-ford も「**フォード**」からは程遠い「**ファド**」です。

AE では、この -ford は弱いながらも、多少長さがあります。強勢母音も含めると、「**アークススフォード**」のような表記でも違和感がありません。

◆ BE は強勢の数が少ない

もう 1 つ BE が速く聞こえる理由があります。それは、**長い単語での強勢の数が少ない**ということです。

library, dictionary といった中学 1 年生ぐらいで習うような単語や、secretary などがその例です。

	AE	BE
library	[laɪbrəri]	[laɪbri]
dictionary	[dɪkʃənəri]	[dɪkʃənri]
secretary	[sekretəri]	[sekrettri]
laboratory	[ləb(ə)rətɔ:ri]	[ləbɔ:tri]



John showed me around the **laboratory** where he works. 

(ジョンは自分の研究室を私に見せてくれた。)

AE では、こうした語に第 2 強勢が付きます。その分、ゆっくり発音されます。一方、BE では、ここに挙げた単語の強勢の数は 1 つだけ。すると、こういった長めの単語は、一気に発音されることになります。その結果、AE で第 2 強勢が付いている母音が省略され、音節数も 1 つ減ります。

さらに、library の -r- ように、後半部分で同じ文字が 2 つあると、そのうち最初の 1 つが落ちてしまうことすらあります。

実はこういった現象は、地名にも見られます。サイモンとガーファンクルの

歌の「スカボロフェア」の Scarborough で見てみましょう。

	AE	BE
Scarborough	[skɑːbərəʊ]	[skɑːbrə]



BE では、強勢が 1 つになることで、母音の数（音節数）も 1 つ減っています。発音記号の見た目も、非常に短くなっていますね。

単純に音節数で考えても、BE は AE の 2/3 ということです。ましてや AE には強勢が 2 つあり、強勢では母音が長くなります。それゆえ、2 つ強勢のある AE は相当な長さになります。一方、BE では、強勢は 1 つ。そのため、BE の Scarborough はかなりの速さに聞こえるのです。

◆ 音節が減る

また、強勢の数は英米同じ単語でも、BE では、一度にできるだけ多くの文字を発音しようとします。結果として、母音が落ちるなどして、音節数が AE より少なくなることがよく起こります。

	AE	BE
medicine	[ˈmɛdɪsn]	[ˈmɛdɪsn]



MY GP gave me a prescription for some **medicine**.
(かかりつけ医に薬を処方してもらった。)

AE では [ˈmɛ·dɪ·sn] と 3 音節ですが、BE では [ˈmɛd·sn] と 2 音節です。このように音節が減る現象は、日常的に使われる長めの単語が、くだけた感じで発音される際に、よく見られます。特に *absolutely* に至ってはお手上げといってもよいほどです。

	BE 標準発音	カジュアル発音
absolutely	[ˌæbsəluːtli]	[ˌæbsli] [ˌæbsi]
miserable	[ˈmɪzərəbl]	[ˈmɪzəbl]



particularly [pə'tɪkju:ləli] [pə'tɪkjəli]
probably [prə'bæbli] [prə'bli]



No, sorry, I have **absolutely** no idea.

(いえ、すみませんが、まったくわかりません。)

Rail commuters are facing a **miserable** Monday morning as heavy rain and strong winds look set to cause further delays and cancellations in the South-East.

(電車通勤の人々は悲惨な月曜日の朝を迎えています。南東部で、大雨と強風により、電車の遅延と運転中止が続くようです。)

◆ 単語間でも音節は減る

BE では、母音が落ちて音節が減る現象は、単語間でも起こります。

よく起こるのが、疑問文の出だしの do you です。この do の母音が落ちて、you と結びつき、1 語のように発音されるのです。[dju][djə] がそれです。しかし、そこからさらに音変化が起こり、[dʒə] といった感じにすらなります。こうなると、もとの do you にたどり着けません。

do you → [dju] [dʒu] (ややはっきりした音形)
[djə] [dʒə] (かなり崩れた音形)



Do you want to come?

(あなたも来ない?)

Do you think it's a bit short?

(ちょっと短いかな?)

ただ、do you は、d'you という表記が存在しますから、この短縮化は、想像できなくはないのです。

でも、do you と非常に似た形の短縮化で、知られていないものがあります。それは、to you です。この to の母音が落ちて、you と結びつきます。そして、[tju] [tʃu]、さらには [tjə] [tʃə] となるのです。これは、BE でよく起こります。

to you → [tju] [tʃu] (ややはっきりした音形)
[tjə] [tʃə] (かなり崩れた音形)



Nice to talk **to you**. [tʃu]

(お話できて、うれしいです。)

I just wanted to talk **to you** [tʃu] about something to do with
the wedding.

(結婚式について、あなたと話がかかったの。)

to や、you 以外の代名詞でも、この母音の脱落は起こります。たとえば into his が [ɪnt^hɪz] 「インティズ」のようになることがあります。into の -o が落ちて、[t] が次の [h] とつながった結果、息の擦れる音が響く、強い [t] ([t^h]) があらわれているように聞こえるのです。



I knew I was in trouble when my boss called me
into his office.

(上司が私を部屋に招き入れたとき、面倒なことになったと思った。)

◆ 機能語が消える

助動詞や前置詞などの機能語は、通常弱く発音されます。BE では、その弱まり方が非常に大きいのです。その結果、消えてしまうこともあります。これは、日本人には想像できない現象です。なぜなら、日本語では、1文字1文字を滑舌よく、はっきり発音するのがよいとされているからです。

英語では、主役である**内容語**(名詞・動詞・形容詞・副詞など)さえ際立てば、十分情報が伝わります。機能語は脇役にすぎません。だから弱まるわけです。

さらに BE では、機能語が聞こえなくなるまで弱まることもよく起こります。例を挙げましょう。以下の例文は文字だけ見れば、まったく簡単な疑問文です。ところが、音声ではどう聞こえるでしょうか。

What **are you** eating?

(何を食べてるの?)



聞こえるのは「ウワツツィーティン」ではないでしょうか。are はどこでしょう。you もないように聞こえます。これほど機能語は弱まるものなのです。また、次の文はどうでしょう。

OK, I'll be there **as soon as** I can.

(わかった、できるだけ早く行く。)



赤字の部分は、文字で見ると確かに as soon as です。でも、聞いてみると、since に近いような音です。2 つの as は消えてしまったかのように、弱まっているのです。なお、2 番目の as では -s がかりうじて [s] のような形で残っています。soon の [u:] は、円唇が弱く、「イー」に近く聞こえます。その結果、赤字の部分は since に近く聞こえるのです。

このように、BE では、機能語がただごとではないくらい弱まる、ということが頻繁に起こるのです。ただ、機能語は重要ではありません。だからこそ、聞こえなくなるくらい弱まるのです。これを知っているだけで、聞き取りは楽になります。

◆一気に発音する

BE が速く聞こえて、わかりにくい原因をいろいろ述べてきました。そして、最後にもう 1 つ、それらを踏まえたからこそその決定的な要因があるのです。1 音節が短いからこそ、そして単語は音節数を少なくして発音するからこそ、できること。

一息で言える単語数が多くなるということ。つまり、一度に多くの単語が一気に発音されるのです。その結果、メチャメチャ速く感じるわけです。

この一気に発音する傾向は、なぜか女性の話し方に非常によく観察されます。まずは、p.9 でも見た例です。最初に聞いたとき、びっくりした人もいたかもしれません。それもそのはず。一気に 14 語が発せられていて、しかも to you が [tʃu] のように発音されていたのですから。

I just wanted to talk **to you** about something to do



with the wedding.

(結婚式について、あなたと話しかかったの。)

聞き手にとって困るのは、この一気に発音する言い方が疑問文にもあらわれることです。

If you're going to the newsagents, could you get me a packet of crisps and some sweets?

(ニューススタンドに行くなら、私にポテトチップス 1 袋とお菓子を買ってきてくれませんか。)



どうでしょう？ この文は、if 節で始まっているので、まだ心の準備がしやすいかもしれませんが、質問の内容は、日本人には想像しにくいものです。newsagents は、その意味を知っていたとしても、キオスクのイメージですよ。そこでお菓子を買ってきてくれないか、という質問はちょっと予想外です。しかも、この一気にたたみかけるような速さ！ こんな質問が飛び込んでくると、普通の日本人なら面食らってしまいますよね。

◆ 機能語は弱まるのが普通だが…

ところで、p.9 で、BE では機能語が弱く発音され、消えてしまうこともあると説明しました。さらにやっかいなことに、機能語が弱くなると、音が変わってしまうことがあるのです。聴解上、意外にやっかいな機能語をここでもう少し詳しく見ておきましょう。

たとえば、I'll, can, from はいつでも「アイル」、「キャン」、「フロム」と発音される——私たちは、そう信じて疑いません。でも、実際はそうではありません。I'll は [aɪ], そして、can は [kən], from は [frɒm] (それぞれ鼻から息を抜くように発音する「クン」、「フム」) となるのです。

以下の文には、from が 2 回使われています。よく聴いてみてください。

A 75-year-old man **from** Norwich, who went missing after discharging himself **from** hospital, against doctor's

